

# PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 63-131658

(43)Date of publication of application : 08.08.1988

---

(51)Int.Cl.

H04N 1/32

---

(21)Application number : 61-277632

(71)Applicant : FUJITSU LTD

(22)Date of filing : 20.11.1986

(72)Inventor : FUJIWARA KELJI

INOUE TETSUYA

IKENOTANI KOJI

---

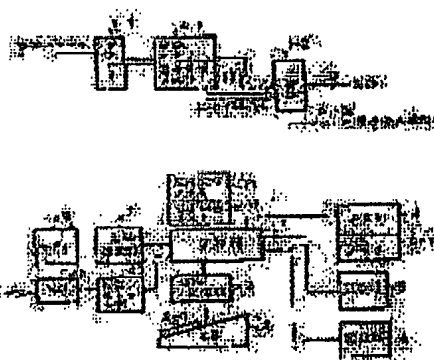
## (54) FACSIMILE INCOMING CALL REFUSAL SYSTEM

### (57)Abstract:

**PURPOSE:** To refuse an undesired incoming call before starting recording, by storing an opposite number registered in advance or having a large amount of communication history in a memory, collating the incoming call when it is received with the content of the memory, and performing reception when they coincide, and outputting incoming call refusal information when no coincidence is obtained.

**CONSTITUTION:** A counter 1-1 in a CPU1 is started simultaneously with the reception of the incoming call, and a registration memory 4-1 and an incoming call/reception memory 11 are searched. The registration memory 4-1 stores a

TEL No registered corresponding to a one-touch key and it is stored in a prescribed area in the memory in a constant format. The incoming call/reception memory 11 records and stores incoming and received TEL Nos and the number of times of reception other than registration. And the content of the registration of the memory 4-1 and a selected



content in the incoming/reception memory 11 are compared with an incoming TEL No at a comparator 1-2, and when they coincide, reception is executed, and when no coincidence is obtained, the incoming is refused. In such way, it is possible to eliminate the undesired incoming call.

⑫ 公開特許公報(A)

昭63-131658

⑬ Int.Cl.<sup>4</sup>  
H 04 N 1/32

識別記号 庁内整理番号  
L-6940-5C

⑭ 公開 昭和63年(1988)6月3日

審査請求 未請求 発明の数 1 (全4頁)

⑮ 発明の名称 ファクシミリ着呼拒否方式

⑯ 特 願 昭61-277632

⑰ 出 願 昭61(1986)11月20日

⑱ 発 明 者 藤 原 啓 司 神奈川県川崎市中原区上小田中1015番地 富士通株式会社  
内  
⑲ 発 明 者 井 上 哲 也 神奈川県川崎市中原区上小田中1015番地 富士通株式会社  
内  
⑳ 発 明 者 池ノ谷 浩二 神奈川県川崎市中原区上小田中1015番地 富士通株式会社  
内  
㉑ 出 願 人 富士通株式会社 神奈川県川崎市中原区上小田中1015番地  
㉒ 復代理人 弁理士 田坂 善重

明 細 書

1 発明の名称

ファクシミリ着呼拒否方式

2 特許請求の範囲

(1) 着呼に対し自動受信機能を有するファクシミリ装置において、

予め登録された相手先番号または通信履歴の多い相手先番号を選択し格納しておくメモリと、

着呼があつた場合該相手先番号を前記メモリ内容と照合する手段と、

該照合の結果一致すれば受信を行ない、不一致ならば着呼拒否通知を出力する手段と、

を具えたことを特徴とするファクシミリ着呼拒否方式。

(2) 前記着呼拒否通知をファクシミリ内の所定メモリに保存しておき一括または個別に参照しうることを特徴とする特許請求の範囲第1項記載のファクシミリ着呼拒否方式。

3 発明の詳細な説明

〔 概 要 〕

本発明は自動受信機能を有するファクシミリ装置において、予め登録されまたは通信履歴の多い相手先番号をメモリに格納しておき、着呼があつた場合その内容と照合し、一致すれば受信を行ない、不一致なら着呼拒否通知を出力する。これにより好ましくない着呼を記録開始前に拒否することができる。

〔 産業上の利用分野 〕

本発明は好ましくない着呼を記録開始前に拒否できるファクシミリ着呼拒否方式に関するものである。

〔 従来の技術 〕

従来の自動受信方式のファクシミリ装置の1例を第4図(a)の構成説明図と同図(b)の通信手順で示す。

同図(a)において、ファクシミリ装置は、制御部1、操作制御部2、キーボード(KB)3、メモリ

4. 読取部5, 記録部6, 圧縮復元部7, モデム8, 制御ユニット9, 自動ダイヤル部10から構成される。さらにキーボード上の操作パネル3-1上にワンタッチキー群が設けられ、その登録相手先が登録メモリ4-1に格納される。

送信データはKB3から相手先番号をワンタッチキーまたはテンキーにより入力し自動ダイヤル発信し、一方読取部5で送信原稿を読取り、制御部1の制御により圧縮復元部7でランレングス圧縮した後、モデム8で搬送波を変調し商用回線に送出される。受信データは回線からNCU9を介しモデム8で搬送波を復調し、制御部1の制御によりメモリ2に一旦格納するかまたは復号して記録部6に自動記録される。

同図(b)は上記フアクシミリ装置に適用されるG3フアクシミリの通信手順の説明図である。

同図で、送信側からの16HZの呼出信号に応じ、受信側から2100HZの応答信号(CNG)と受信側の能力の通知(NSF)DISを返し、送信側から応答信号(DCS)を送る。これに引続き回線チェック

送出し着呼切斷ができることに着目した。

本発明の目的は通信手順における着呼から相手先の電話番号を知り、記録開始前に拒否できるフアクシミリ着呼拒否方式を提供することにある。

#### 〔問題点を解決するための手段〕

前記目的を達成するため、本発明の方式では、自動受信機能を有するフアクシミリ装置において、予め登録された相手先番号または通信履歴の多い相手先番号を選択し格納しておくメモリと、着呼があつた場合該相手先番号と前記メモリ内容とを照合する手段と、該照合の結果一致すれば受信を行ない、不一致ならば着呼拒否通知を出力する手段とを具えたものである。

#### 〔作 用〕

上記構成により、着呼に対し登録と実績とにより好ましくないものは拒否する。すなわち、第1図の原理説明図に示すように、CPU1内のカウンタ1-1を着呼と同時にスタートさせ、登録メモリ4-

のためのトレーニング信号を送り、この肯定応答(CFR)を得て、まず画データの先頭トレーニング信号(0101...)と画データ(PiX)を送出する。PiXの送信が終了すると送信側から画データの終了信号(EOP)を送り、受信側からの肯定応答(MCF)を得て切斷信号(DCN)を送出する。

#### 〔発明が解決しようとする問題点〕

最近フアクシミリ装置が小形化し家庭に普及されるに伴い、通信販売の一種として、フアクシミリの自動通信機能を利用し、直接広告物を強制的に送付けることが行なわれている。このようなフアクシミリを使つた商法が適用されると、ユーザにとって好ましくない着呼により装置が無断で占有され、かつ記録紙の費用はユーザ負担となるといふ不都合が生じる。

これに対し、本発明者は第5図(b)の通信手順における受信側からの能力通知(NSF)DISにTSコードとして電話番号(TEL 宛)が含まれるのを用い、このTEL 宛が好ましくない場合にはDCNを

1と着呼、受信メモリ11をサーチする。

登録メモリ4-1は前述のワンタッチキーに対応して登録されたTEL 宛であり、第2図(b)に示す形式でメモリ4の所定領域に格納される。着呼、受信メモリ11は登録以外の着呼、受信されたTEL 宛と回線を記録し、たとえば第2図(c)の形式で格納される。そして登録メモリ4-1の内容と着呼、受信メモリ11のうちの選択された内容とを比較部1-2で着呼TEL 宛と比較し、一致すれば受信し、不一致ならば着呼拒否する。

これにより、好ましくない着呼を排除することができる。

#### 〔実施例〕

第2図(a)~(d)は本発明の実施例の構成説明図と部分説明図である。

同図(a)の構成説明図において、第4図(a)と異なる点は、登録メモリ4-1を用いる外に着呼受信メモリ11を設けたことである。同図(b)に示す登録TEL 宛の外、同図(c)に示す着呼、受信メモリに示

したようにTELNoと受信回数とを調べ、一定回数以上であると登録に追加する。そして、この判定で拒否されたTELNoは着呼拒否リスト11-1のメモリ領域にリストアップする。同図(4)は着呼拒否リストの1例を示したもので、たとえば日付、時刻、TELNoが記入される。これを一括しまたは個別に着呼拒否通知として参照できる。

第3図(a)、(b)は本発明の要部の動作を示す流れ図である。

同図(a)は第1図の構成を用い登録メモリ4-1との照合手順を示す。第2図(b)に対応し、カウンタを $n=1$ から歩進させ、通信手順のTSIが $n$ (TELNo)と一致すると、「登録有」となる。また、 $n>m$ の場合は「登録無」となる。

同図(b)は着呼受信メモリ11との照合手順を示す。すなわち、第2図(d)に対応し、カウンタを $n+1$ から歩進させ、メモリにTELNoが有るか否かを調べ、有る場合には、着呼回数に1加えて、これが一定値 $X$ より大きければ登録に追加する。また、 $n>m$ の場合に対して登録に追加して抜けた

制御部、2は操作制御部、3はキーボード(KB)、3-1は操作パネル、4はメモリ、4-1は登録メモリ、5は読取部、6は記録部、7は圧縮復元部、8はモデム、9はNCU、10は自動ダイヤル部、11は着呼受信メモリ、11-1は着呼拒否リストを示す。

特許出願人 富士通株式会社  
復代理人 弁理士 田坂 善重

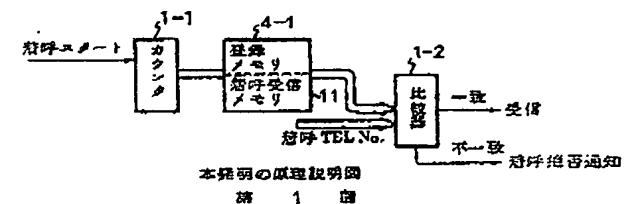
分だけ繰めるようにする。すなわち着呼回数 $=1$ のうち最も小さいものを削除し、 $n=n-1$ とし $n=m$ に着呼メモリのTELNoを入れる。

### 〔発明の効果〕

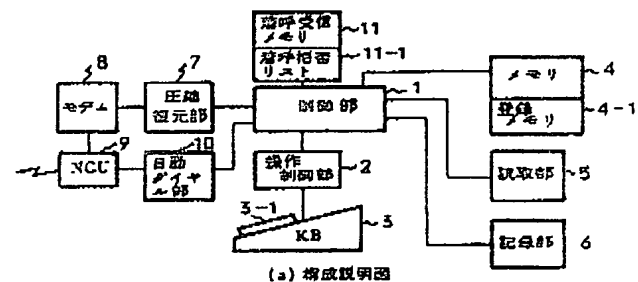
以上説明したように、本発明によれば、予め登録されまたは通信履歴の多い相手先番号をメモリに格納しておき、着呼があつた場合この内容と照合し、一致すれば受信を行ない、不一致ならば着呼拒否通知を出力する。この場合着呼後の相手先からの能力通知時のTSIにより得られた電話番号を元にして好ましくない着呼に対し記録開始前に拒否できるから、不必要にフアクシミリ装置を占有されたり、用紙を無駄使いする困法を排除することができる。

### 4. 図面の簡単な説明

第1図は本発明の原理説明図、第2図(a)~(d)は本発明の実施例の構成説明図と部分説明図、第3図(a)、(b)は実施例の要部の動作を示す流れ図、第4図(a)、(b)は従来例の説明図であり、図中、1は



本発明の原理説明図  
第1図



(a) 構成説明図

1	TEL No.
2	
3	
m	

(b) 登録メモリ

1	TEL No.	回数
2		
3		
m		

(c) 着呼受信メモリ

本発明の実施例の構成説明図  
第2図

